

都市デザイン学部(地球システム科学科)の3つのポリシー

【 学士(理学) 】

大学の目的 (学則 第3条)		学部(学科)の教育研究上の目的	
<p>本学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化、人間社会と自然環境との調和的発展に寄与することを目的とする。</p>		<p>地球システム科学科は、「地球」と「地域」の両方の視点から自然を理解し、自然災害など地域が直面する課題に対して解決策を創造するとともに、デザイン思考の素養も有した研究者、技術者、教員等の専門的職業人を育成することによって、人間社会と自然環境との共生に貢献することを目的とする。</p>	
ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー	
<p>【卒業認定・学位授与方針】 地球システム科学科では、本学科の目的に基づき所定の課程を修め、以下の能力を身に付けた者に対し、専門的職業人として社会で活躍できる人材として、学士(理学)の学位を授与する。</p>	<p>【教育課程編成方針】 地球システム科学科では、卒業認定・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)に示した5つの能力を学修するため、以下の科目群を体系的・系統的に実施する。 1) 教養教育科目 2) 学部共通教育 3) 専門基礎科目 4) 専攻科目 講義、演習、実験、実習等、様々な方法・形態の授業において、学生が主体的・能動的に学ぶことに重点を置く。各教科の成績は、シラバスにあらかじめ示された評価方法により、学修成果別評価基準(ルーブリック)に沿って評価することを基本とする。</p> <p>【教育課程実施方針】 ・4年間を通じて、教育課程編成方針で示した3つの教育を体系的・系統的に実施する。</p> <p>・1年次においては、幅広い知識を身に付けるための教養教育、基礎的な地球システム科学の教育(専攻科目)、及び地球システム科学を学修する上で基礎となる数学及び物理学についての教育(専門基礎科目)、自然科学・科学技術と社会との関わりを学修する学部共通科目「都市デザイン学総論」を実施する。</p> <p>・2年次においては、地球システム科学の専門的学識を身に付けるための専門教育科目(専攻科目)、及び科学と社会の関わりについて学修し、責任感を養成する学部共通科目「自然災害学」、「インフラ材料」、「物質科学」を実施する。</p> <p>・3年次においては、地球システム科学の専門的学識を身に付ける専門教育科目(専攻科目)を実施するとともに、社会的責任感、倫理観を醸成する「科学者・技術者倫理と知的財産」、地域の課題に学部横断グループで取り組む「地域デザインPBL」を実施し、責任感やコミュニケーション能力を養成する。</p> <p>・4年次においては、それまでに学修した専門的学識を基にして、地球システム科学の様々な問題に取り組む、その解決を目指した卒業研究を実施する。これを通じて、社会で活躍できる専門的職業人としての実践力を養成する。</p>	<p>【入学者受入れ方針】 地球システム科学科では、次のような人材を求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球の成り立ちや変動、地域の自然や環境に強い関心をもつ人 ・高等学校までの基礎学力を十分に備えている人 ・ものごとを論理的に考えることを志向する人 ・多様な人々と協働することを志向する人 ・地球や地域についての知識や視点を将来の職業に活かしたい人 <p>【入学者選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】 一般選抜(前期日程、後期日程) 大学入学共通テスト及び本学が実施する個別学力検査により、高等学校卒業までに修得すべき基礎学力を評価する。本学では、特に読解力、論理的思考力を重視する。</p> <p>総合型選抜Ⅱ 本学が実施する第1次選抜(自己推薦書、志願理由書)及び第2次選抜(個人面接、プレゼンテーション等)では、主体性、積極性、協働性、観察力、論理的思考力、表現力などを評価する。第2次選抜合格者に対して、大学入学共通テストを課し、数学及び英語の基礎学力を評価する。</p> <p>特別選抜(帰国生徒選抜、社会人選抜) 本学で「小論文」を課し、論理的な思考力及び文章表現力を評価する。また、「面接」を課し、口頭による表現力を評価する。</p> <p>私費外国人留学生選抜 日本留学試験では、基礎学力を評価する。 本学では「面接」を課し、学修意欲及び基礎学力と日本語能力を評価する。</p> <p>【入学前に学習すべきこと】 高等学校卒業までに学ぶ数学、理科、国語、外国語、地理歴史・公民について、十分な基礎学力を身に付けておくことが重要である。理科(物理、化学、生物、地学から2科目以上)、数学(I、II、III、A、B)、英語は、特に十分な学習をしていることが望まれる科目である。</p>	
【学修成果の到達目標】		【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】	
<p>幅広い知識</p> <p>【学修成果】 人文・社会学、芸術文化についての幅広い教養を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 人類の文化、社会に関する知識の理解</p>	<p>【学修内容】 自然科学のみならず、人文社会系を含めた、幅広い基礎知識を修得する。</p> <p>【学修方法】 教養教育科目、専門基礎科目を中心に講義・演習・実験・実習等により実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 評価は、達成度を客観的に評価する。</p>		<p>【求める資質・能力】 高等学校卒業程度の基礎知識を幅広く身に付けていること。</p>
<p>専門的学識</p> <p>【学修成果】 専門的職業人として必要とされる自然科学、科学技術について体系的な知識を身に付け、学修成果を自然やその社会との関わりについての課題解決に活用することができる。</p> <p>【到達指標】 地球の成り立ちや地域の自然の理解、自然と人間社会との関係の理解</p>	<p>【学修内容】 地球システム科学の専門的知識や技術を体系的に修得し、それらをグローバルに活用する能力を身に付ける。</p> <p>【学修方法】 地球システム科学の専門的知識や技術、及び英語力を身に付けるための講義・演習・実験・野外実習等を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 評価は、達成度を客観的に評価する。</p>		<p>【求める資質・能力】 科学的思考力の基礎として「数学」及び「理科(物理、化学、生物、地学のうち2科目以上)」を身に付けていること。また、自然科学に対する強い関心を持っていること。</p>
<p>問題発見・解決力</p> <p>【学修成果】 専門的職業人として自然やその社会との関わりについての問題を発見・理解し、必要な知識及び資源を活用して適切な解決方法を考え、行動することができる。</p> <p>【到達指標】 問題発見・解決力、論理的思考力、情報収集・分析力</p>	<p>【学修内容】 自然科学の原理や法則を理解し、論理的思考により自ら問題を発見し、解決に向けた取り組みができる能力を身に付け、創造力を養うため、自ら課題を発見し、調査、分析する学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 複雑な自然界から問題を発見し、解決する能力を身に付けるため、1～3年次では室内実験や野外実習、データサイエンス関連授業を毎年度開講する。 主体的な学びの力を高めるため、3年T4より専攻セミナーを開講し、卒業研究論文作成への準備期間を用意したり、アクティブラーニングなどを取り入れた授業、実習などを実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 評価は、達成度を客観的に評価する。</p>		<p>【求める資質・能力】 高等学校卒業程度の基礎知識を幅広く身に付けていること。また、科学的な好奇心を持っていること。</p>

ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
【学修成果の到達目標】		【学修内容, 学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
社会貢献力	<p>【学修成果】 専門的職業人としての自らの役割や責任を理解し, 他者との積極的な協働や交流を通して, 社会のために行動することができる。</p> <p>【到達指標】 倫理観, 自己管理能力, チームワーク</p>	<p>【学修内容】 社会の一員として倫理観と使命感を持って主体的に行動し, 自然科学の専門的知識をもって地域と国際社会に貢献する能力を身に付ける。</p> <p>【学修方法】 社会的責任感や倫理観の醸成, 自己管理能力, チームワーク力を身に付けるため, アクティブラーニングなどを取り入れた授業, 実習などを実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 評価は, 達成度を客観的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 社会の一員として倫理観と使命感を持って主体的に行動できる, もしくは行動する意志を持っていること。</p>
コミュニケーション能力	<p>【学修成果】 専門的職業人として, 自らの考えを分かりやすく効果的に表現するとともに, 他者の考えを理解し, 様々な背景を持つ人々と協働することができる。</p> <p>【到達指標】 コミュニケーション・スキル, 数量的スキル, 情報リテラシー</p>	<p>【学修内容】 自分の考えを適切に伝えるとともに, 他者の考えを正しく理解し, 多様な人々と協調・協働できる能力を身に付ける。</p> <p>【学修方法】 プレゼンテーション力, コミュニケーション・スキル, 数量的スキルを取り入れた講義, 実習を実施する。 室内実験・野外実習等では, 複雑な自然界の様子を文章で再現性良く他者に伝える方法を身に付ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】 評価は, 達成度を客観的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 自分の考えを適切に伝えることができ, 他者の考えを理解することができる, もしくはそれらの能力を身に付ける意志を持っていること。また, 多様な人々と協調・協働できる能力を身に付けている, もしくは身に付ける意志を持っていること。</p>